公開講座「地球人の住む惑星ができるまで」に参加して

平成 16 年 12 月 20 日（月）に２１世紀ＣＯＥプログラム「地球人の住む惑星ができるまで」の第 2 回公開講座に参加した。演題の「我々はどこからきたのか、我々は何者か、我々はどこへ行くのか」に興味を持ち参加した。ＣＯＥ拠点リーダー高橋栄一教授のご挨拶の後、丸山茂徳教授が講演された。

はじめに、自己紹介に代えて、ご自分のライフワークと育った環境との関係をお話になった。続いて、（1）生命の歴史と未来、（2）現代とはどのような時代か、（3）2020 年問題など非常に多岐に亘ったお話であった。

お話のはじめの方で、講演の題名と同じ表題のボストン美術館所蔵の次のゴーギャンの絵画を示された。絵画の右から左へ過去、現在、将来を示していると言う。ゴーギャンがどのような構成からこの絵画を作成したかはわからないが製作年 1897 年から 100 年以上経つ現在でも凄い迫力を感ぜずにはいられない。

「われわれは何処から来たのか、われわれは何者か、われわれは何処にいくのか」

ご講演の詳細は割愛させていただくが印象に残ったキーワードとして「人類は文明の家畜となってしまった」、「産業革命がアジアになぜおきなかったか？」、「地球温暖化が問題になっているが、地球の歴史サイズから見ると寒冷化へ進むのではないか？」などいろいろと考えさせられる課題が提議され非常に有意義であった。